

広告

一緒に考えましょう!

エネルギーのことの資源編

ENERGY



ふじさわわくみ
国内外の投資運用会社を経て、1996年、日本初の投資信託評価会社、アイフィスを創業。2000年、シンクタンクソフィアバンク設立に参画。現在、副代表。社会起業家フォーラム副代表。

出典：読売新聞 2008年12月9日(火)

経済危機は立て直しのチャンス。
資源小国の知恵で世界に貢献。

●シンクタンクソフィアバンク副代表 藤沢久美さん ●聞き手：近藤和行読売新聞東京本社編集委員



世界的な金融危機と資源価格の高騰で、日本経済の屋台骨が揺らいでいる。日本が進むべき方向はどちらか。エネルギー問題にも詳しい、金融の専門家、藤沢久美さんに聞いた。

金融より実体経済に強み。インフラ整備へ投資も二助。

日本経済は金融危機に揺さぶられています。

市場は不安定な状況が続いています。来るべき時がきたのだと思います。金融市場も商品市場もバブルがはじけたのです。

グリーンスパン(前FRB議長)の言葉を借りれば「100年に1度の危機」ですが、逆に、21世紀の社会基盤(インフラ)を作り直しましょうというメッセージだと思います。お金がお金を生む資本主義を見直し、実体価値に基づく経済に戻すのに良い時期です。金融に弱い日本にとって、巻き返しのチャンスでもあるのです。

個人も、投資を見直す良い機会です。株価に喜ぶ憂する投機ではなく、市場に参加し、経済成長を支え、その恩恵を受けることができる少額の積み立て投資を始めてみてはどうでしょうか。自然と経済にも興味が出てくるはずです。

資源を生かす技術開発で先行。電源の「ベストミックス」。

原油は少し落ち着いたとはいえ、資

源価格の高騰で経済はダメージを受けていますね。

最近、海外に行く機会が多かったので、中国もアフリカもアラブ諸国も大変なスピードで成長しているのを見ってきました。人口も増え、生活水準も上がっている。エネルギー価格が上がるのは当然です。

この分野でも、日本が存在を示すチャンスだととらえています。日本は資源がないからこそ、石油ショックを機に、省エネ技術の開発に取り組み、原子力発電を増やすなど効率化を進めてきました。その技術や経験を生かしたアドバイスは有効です。

原子力、石炭、LNGなどバランス良く組み合わせた電源の「ベストミックス」は、世界に誇れるものだと思います。

そして今、自然エネルギーを含めた次なるベストミックスへ向けて準備を始めるときでもあります。環境に配慮のある未来のエネルギー社会へつなげるために、今重要な存在が、運転時にCO₂を排出しない原子力発電です。

原子力情報は分かりやすく、現場と生活者の交流の機会増を期待。

しかし、原子力発電は事故などもあって、不安視する人も多いようです。

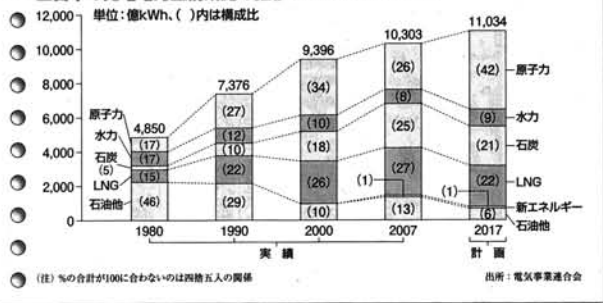
唯一の被曝国ですから、原子力や放射線に対して、恐怖感や抵抗感が大きいのは当然だと思います。だからこそ、最近の食品偽装などと同様に、発電所での人為

ミスによるトラブル等は生活者に正しく伝えることが大切です。

ただ、もっと分かりやすく情報を提供する必要があります。生活者も身近なエネルギー問題にもっと興味を持つ必要はあります。原子力は難しく、分かりにくい。分かりやすく、生活者が判断材料にできる情報提供、それは専門家やマスコミの役割でもあると思います。

さらに言えば、もっと多くの人たちが発電の現場を訪ねたり、現場に携わる人たちの意見交換や交流の機会を増やし、日頃感じている疑問を自分の目で確認する機会が必要だと思います。

●日本の発電電力構成比の推移(10電力計、受電を含む)



企画・制作 読売新聞東京本社広告局
電気事業連合会 <http://www.fepc.or.jp>